

I

<模範解答>

問1 ①ア ②エ ③イ

問2

ホテルやサービスハウスでは、第三者によるサービス提供を容易にするために運営者が共用空間を設けるのに対して、コレクティブでは、個々の居住者が相互に家事を分担するなど、住生活の一部を他の居住者と協力して営むために設けている。他方、シェアハウスでは、個々の住まい手が独立した住生活を営むための空間を確保しておらず、台所などを共用空間としてシェアすることを余儀なくされる場合が想定される。空間をシェアする理由や目的は多様で、住生活を共同化するためとは限らない。これに対して、コレクティブの共用空間は、専用住戸で独立した住生活を営めることを前提に、その面積を出し合って設けるもので、居住者に利用を強いるものではない。コモンミールの運営にみられるように、そこで家族関係にない他の居住者とゆるやかにつながり、協同する住生活を豊かなものと捉え、そのような暮らしを指向する人々がいてはじめて成立する空間である。(396字)

問3

かんかん森には居住者が住生活の一部を協働する共用空間として、北西角にまとまったスペースがとられている。そこには、コモンミールを準備する台所や居住者が一緒に食事をとる食事室、くつろぎ、交流するコモンリビングがある。それらはコモンデッキやコモンテラスと連続し、広がりのある空間となっている。さらに、共用のランドリー、ストックルーム、菜園テラスなど、居住者が必要な時に利用する共用の設備や共同活動を促す半戶外空間がある。共用廊下は、移動のためだけでなく、滞留したり、立ち話をしたりすることを許容する広さで、菜園テラスへと続くその一部がキッズスペースとなっている。個々の住戸は、独立した住生活を営むために必要な設備を完備しているが、ワンルーム形態のものが多く、広いものでも2LDKの間取りである。総じてコンパクトであり、個々の住戸の専有面積を削減することで、広い共用空間が生み出されている。(391字)

<出題意図>

問1 ではコレクティブハウジングについて述べられたリード文の読解力と、その概要を掴み、適切な見出しを選択する能力を問う。問2 では、コレクティブハウジングと同様、共用空間をもつ他の居住形態とコレクティブハウジングとの相違点を説得的に論述する能力を、問3 では、図面読解力と図面や写真から読み解いた空間特性を的確に表現する能力を問う。

<採点基準>

問1 各10点、合計30点

問2 サービスハウス、シェアハウスに共用空間が生まれる理由とコレクティブのそれを峻別できている。12点
サービスハウスやシェアハウスとの相違点を念頭に、コレクティブにおいて共用空間が成立する条件を的確に説明できている。12点

適切な文字数で構成された論理的な文章である(自らの言葉で表現できていることを含む)。6点

誤字・脱字がなく、適切な表現を用いて、要点を過不足なく論じている。5点 (合計35点)

問3 図面に表現されている空間要素を的確に捉え、説明できている。12点

空間構成の特徴をコレクティブのコンセプトと結び付けて説明できている。12点

全体の平面構成や方位を意識した説明となっている。6点

誤字・脱字がなく、適切な表現を用いて、要点を過不足なく論じている。5点 (合計35点)

採点基準：

問1 (20点)

- 1) 文意を正しく理解できているか (要点 各2, または1点)
- 2) 論理的に要約できているか (あまりできていない:-2点, できていない:-4点)
- 3) 自分の言葉で要約できているか (できている:+2-1点)
- 4) 文法ミスがないか (軽微な文法ミス:-1点, 文法ミス:-2点)

問2 (10点)

- 1) 文意を正しく理解できているか (要点 各2, または1点)
- 2) 論理的に要約できているか (あまりできていない:-1点, できていない:-2点)
- 3) 自分の言葉で要約できているか (できている:+2-1点)
- 4) 文法ミスがないか (軽微な文法ミス:-1点, 文法ミス:-2点)

問3 (20点)

- 1) 家事・育児・仕事に関する変化, 住空間に生じている問題, 住空間に対する改善策を記述できている (20点)
 - 2) 論理的に要約できているか (あまりできていない:-2点, できていない:-4点)
 - 3) 文法ミスがないか (軽微な文法ミス:-1点, 文法ミス:-2点)
- ※文字数不足 (50%以下) :-4

模範回答例：

問1（300字以内）

新型コロナウイルス感染症の拡大によって在宅勤務が増えた。職場の方が集中して仕事に取り組めるという意見もあるが、通勤にかかっていた時間を柔軟に使うことができるようになったという意見が多い。アンケート調査によると、働き手の在宅勤務に対する肯定的な回答は8割を占める。一方で、ほとんどの雇用者はスタッフの管理が難しい在宅勤務を好んでおらず、感染者数が少なくなるにつれて職場へ通勤する、つまり旧式の働き方に戻る人も増えてきた。しかし、多くの方がより望ましくないと考える働き方に戻すことは難しい。この機会を活用して、柔軟な働き方が「ニューノーマル」として続くように、スタッフの管理方法こそを検討すべきである。（299字）

問2（150字以内）

カナダでは、新型コロナウイルス感染症の世界的流行によって夏休みに出かけることができず、自宅を自らの手で改修する人々がかつてないほど増えている。筆者は家族と裏庭に簡単な木のベンチを作ることから始めた。プロジェクトは拡大し、裏庭はテーブルやベンチ、カウンターを備えた小さなパブになった。楽器の演奏を楽しむ場にもなっている。（159字）

問3（300字以内）

働く母親は家と職場の両方に仕事を持っているため、それぞれにおける変化と課題を考えなくてはならない。まず、コロナ禍で家族全員の在宅時間が長くなったことから、家事労働の量が増えたと考えられる。また、在宅勤務となった場合、通勤時間がなくなった分、量のかさんだ家事に時間を充てることはできるが、日本の住宅に子供部屋はあっても主婦のための個室はほとんどない。家事と仕事を効率良く、居心地良く両立することができるように改善する必要がある。例えば、ダイニング・キッチン的一角に仕事のできる小さな専用のコーナーをつくれば、調理の準備や洗濯をしながら仕事がしやすく、リビングに家族が集まっても一人の空間を得やすいのではないだろうか。（308字）

出題意図：

コロナウイルス感染症の拡大によるライフスタイルと住環境の変化に関する文章を読み、長文読解力、内容を要約する力、時事的関心に対する自分の考えを論述する力を確認することが出題の狙いである。

3 模範解答例

問1：高齢化率は2000年～2045年まで、全国・各都道府県共に一貫して上昇しているが、老年人口はその多くが2045年よりも前にピークを迎えている点で、大きく異なる。両者の傾向が異なる要因として人口の減少が考えられ、老年人口の減少よりも分母となる人口自体の減少がより大きいため、高齢化率は一貫して上昇していると推測される。(149文字)

問2：老年人口がピークとなる時期は全国では2040年だが、各都道府県では地域によって異なり、ピークの時期が「2040年以降」と「2020～2025年」の2つのタイプに大きく分けられる。前者は主に三大都市圏や政令指定都市が立地する都道府県など、都市部の都道府県であるのに対し、後者は東北や九州・四国など、地方部の都道府県が該当する。(150文字)

問3：都市部の都道府県では2040～45年頃まで老年人口が増加すると推計されており、特に東京都では100万人、埼玉県や神奈川県では50万人以上と、大幅な老年人口の増加が今後は見込まれる。したがってこれらの都道府県では、高齢者の施設やサービス事業所の更なる整備が必要になると考えられる。これに対して地方部の都道府県では老年人口は2020～25年にピークに達しており、今後は減少すると推計されている。したがってこれらの都道府県では高齢者の施設やサービス事業所の複合化や効率的な統廃合が必要になると考えられる。

以上から分かるのは、今後の日本は各地の社会状況が大きく異なるということだ。従来のように新しい建物・施設を単に作れば良いのでは無く、場合によっては減らす、再編成する、といった視点も必要になる。私は京都市の中心部に住んでおり、高齢化が進む地域の実情を普段の生活で感じることは無いが、社会に出てから様々な地域での仕事に従事した時に、自分の身の回りだけを見ていては社会人として視野が狭くなってしまう。環境デザイン学科への入学後は、地域の実情や将来の状況を含めて、社会全体を大きく捉える視野の広さと深い思考力を身につけていきたい。(498文字)

出題意図：高齢化率と老年人口を示した表から、データ推移の特徴を読み取る読解力、読み解いた内容を要約する力、その特徴を踏まえて自分の意見をどの程度論理的に表現できるかを確認することが本出題の狙いである。

採点基準（配点は問1：12点、問2：10点、問3：28点）

問1：高齢化率と老年人口の傾向の違いを説得力ある文章で指摘できているか：6点

高齢化率と老年人口の傾向の違いを生み出す要因を説得力ある文章で指摘できているか：6点

問2：2つのグループがどう分かれるか、その理由を説得力ある文章で説明できているか：6点

2つのグループにどのような特徴があるかを説得力ある文章で説明できているか：4点

問3 1) 以下の2つの点について、対応の度合いで減点。

① 2つのグループ、それぞれについて記述できているか（文章量とバランスを含む）：6点

② 「建築に関連した今後の問題」が図1・2の内容を踏まえたものか：6点

2)：1)で減点した残りの点数を、以下の2つの点から評価（比率はほぼ50%ずつ）。

③ 設問に即した記述形式で、文章が論理的に記述されているか。また文章量は十分か。

④ 全体として、説得力がある記述内容となっているか。